（第二版）　（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）　昭和十四年十一月十四日（火曜日）　臺灣日日新報　第一万四千二百四十八號　（一）

臺灣昌新報夕刊
十一月十三日
夕刊定價一部一錢
編輯兼發行人　佐々木　齋
發行所　臺北市榮町二丁目廿二番地　臺灣日日新報社
電話番號　本社（代表）四〇〇番　臺中支局　四〇〇番
臺南支局　四〇〇番　高雄支局　四〇〇番
花蓮港支局　四〇〇番　臺東出張所　四〇〇番
大阪市西區阿波座堀通二丁目　大阪支局
（大阪ビルディング內）
東京市芝區櫻田本郷町卅番地　東京支局

マツダランプ

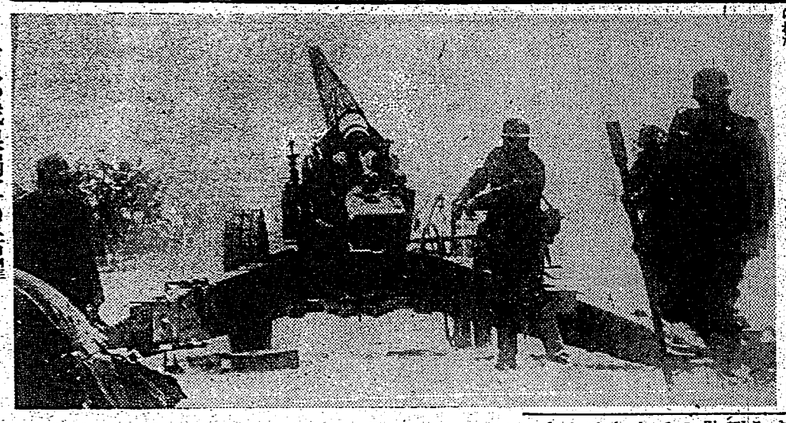
豫算閣議延引か
未決の重要問題山積

【東京十二日發同盟】時既に第四年の內外情勢を盛り込んだ明年度豫算は十二日の大藏省豫算閣議に於て一應の査定を完了したが右はわが國豫算の大綱をなす臨時軍事費追加豫算、臨時新國防充備計畫を始め交通豫算においても關門トンネル竣工豫算その他の土木費、厚生關係費、國民體力管理、義務教育八年制實施等の重要經費目を削除したものでこれ等は第二囘閣議の綜合調整、査定最終改革上の懸案重大事項と併せ等閑人關係の諮問會とともにすべてその決定を本國に持越されることになつた、しかして臨時軍事費追加豫算及び物動計畫は本年中に詳細が明かとなることは困難であるが臨時軍事費の防衛費豫算と不可分の關係にあるのでこれが査定に當つては當然その概要が判明するものと見做はれる、大藏當局としては

【ロンドン十二日發同盟】英國皇帝ジョージ六世陛下は十二日ベルギー、オランダ兩國元首の和平提議に對する囘答を發せられた、右囘答において皇帝は英國が熊彼を開くに至つた理由を說明し若し兩陛下が恒久平和を樹立せんとの御希望に於ては喜んで協力すべきことを述べられた

參謀總長宮殿下
十二日御歸京

【東京十二日發同盟】支那派遣軍總司令部新設に伴ひ親しく中支方面を御視察遊ばされ八日內地に御歸あらせられた　閑院參謀總長宮殿下には十二日午後六時二十分東京御着、永田町の御殿に入らせられた



西部戰線獨軍の活躍
ジーグフリート線後方にて

白、蘭元首の和平提議は失敗
英帝陛下も婉曲に拒絕

【パリ十二日發同盟】去る七日ベルギー、オランダ兩國元首より提出された和平勸告に對しフランス大統領ルブラン氏は十二日附囘答を發し平和の實現は最早フランスの如何ともなし得るところに非らずドイツの誠意一つに懸つてゐると附言に表示可能の意を表明したが、フランス政府は右囘答作成に當つては飽くまでその概要が判明するものと見做はれる、大藏當局としては

何なる提議でも適當されるならばあらゆる政府が直ちに右提議に好意ある考慮を拂ふべきことを望ふものである

佛國も拒絕

【パリ十二日發同盟】去る七日ベルギー、オランダ兩國元首より提出された和平勸告に對しフランス大統領ルブラン氏は十二日附囘答を發し平和の實現は最早フランスの如何ともなし得るところに非らずドイツの誠意一つに懸つてゐると附言に表示可能の意を表明したが、フランス政府は右囘答作成に當つては飽くまでその概要が判明するものと見做はれる、大藏當局として

ついてはイギリス政府と十分打合せを遂げてをり結局兩元首の和平勸告をこれで失敗に歸したわけである

獨、白經濟交涉開始
結果如何で獨軍、白國侵犯か

【パリ十二日發同盟】ドイツ、ベルギー經濟交涉は目下ベルリン訪問中のベルギー經濟使節とドイツ當局との間に十一日より開始された、パリではこの交涉の結果如何はドイツがベルギーの中立を侵犯するか否かを決定するものと見て重大視してゐる、既ち獨逸側ではベルギー國境に對するドイツ軍の集結は既に英佛の進入計畫のため相當強力なるを認つてゐるドイツがベルギーの經濟的中立を尊重し積極的に妥協せしめんと企圖して行はれたるものと見て居り若しベルギー經濟使節がドイツのこの要求を拒絕すれば既に出動準備成れるドイツ軍は直ちに行動を開始するものと見られてゐる

和蘭官邊樂觀
完全な拒絕ではない——と

【ロンドン十二日發同盟】ベルギー、オランダ兩國元首の和平提議に對する英佛兩國元首の囘答は、英國時間十二日午後六時ロンドン發表された、右囘答は英佛兩國政府の意向を代表するものであるが、兩國政府は右囘答に對し

白國の國防全し
デニス國防相言明

デニス國防相は十二日ベルギー國防軍の國土防衛準備は完了したと左の如く言明した

今やベルギー國防軍の準備は最高度にまで充實し各國防線は命令一下直ちに進出に入り得る姿勢をとつてゐる、余は目下の處好ましい狀態を示してゐると言ひ得る、ベルギーはその領土と國家組織を最後まで守り通すの覺悟と確信を有してゐる

港灣を閉鎖
メキシコ政府

【メキシコ十一日發同盟】メキシコ政府は十一日以來ゆるメキシコ港灣を全面的に閉鎖、商船の出入港に對し嚴重なる檢疫を實施することに決定した、右は英國政府の要請に基き英國政府の要請に基き英國政府の要請に基き

選擧戰第二日の島都

定員を四名超過

近く激戰展開は必至

本會議員總選擧は當否と同時に世に多くの問題に見られぬ出足の速さで立候補者の顏觸の揃を息せたが第一日早くも二十二名の申出で二名の定員超過をみた台北市は其の後に兩、北門區會內二名宛の申出があつて結局第二日目午後二時迄に合計二十四名の立候補者を出すに至つた

熾烈な宣傳戰

南署管內に新顏一名

既に出馬の面々に依る熱心な選擧運動は色とりどりの立看板、幟、旗を始め各種の宣傳に益々熱を加へてありとあらゆる策戰に亘り文字戰、言論戰も

子供に一人遊びの時間を與へなさい

獨創や工夫が培はれる

子供にお友達がないことはいろいろの点で心くないことですが、多くの幼児は幸に子供のお友達があり、大勢の中に混つて朝から晩までわあ〳〵遊び暮けてゐるのですといつて、これでその子供に社會性が發達はしてゐると思つてはいけません。大勢で遊ぶことに、ほんとうに興味や魅力を持つてゐません。それで附和的な遊びを求めたり、ただ惰性にひきづられたり、ぼんやり傍觀的になつたり、いろいろなこまる性質をつくつてゐる場合があります。

……×……

かかるルンペン的遊びは益のないつまらぬものです、子供は放つておいても遊ぶもの、何かをして遊んでゐると思つてゐますが、事実はそこいらに落ちてゐるもの、目に觸れるものを手當り次第に取上げてみたり、近所の子供と喧嘩をしたり、なんとなく遊び暮けてゐるのです。

近所の家へ行つたり、帰つて來たりのぶら〳〵遊びをしてゐる子供が多いやうです。雨曇、家の人が忙しく、本氣で相手にならないこと等から、だん〳〵一人ぼつちになり何をしても、夢中になる程面白く遊べないお子さんが決してやくないのです。注意の觀察な希望的でない子供になるのは當然だと思ひます。

……×……

一日中、近所の子供達、おもしろさうに遊んでゐるのに、うちの子供は一人ぼつちで、ただ家の中にゐるのは可哀そうだと、お友達を呼んでやつたり、お友達の家へ遊びに行かせたりなさいますが、これは一時的の興味はあつても、決して子供の遊びの本質的なものではありません。

子供の遊びは、大人の遊びと違つて、全く自己の興味と、自己の滿足のために遊ぶのですから、大人の干渉は禁物です。

子供の遊びについては、工夫してやつて子供が遊べるやうにすることです。

たとへば、適當に場所をつけたり、手わりをつけて、あぶなくない程度にして、喜んで遊ばせるとか、小さい幼兒をつくるとか子供だけが遊べる場所を設けて作つてやるとかいふやうにすれば、子供は、自分でいろ〳〵工夫したり、考へたり、ひとり遊びを樂しむものです。

美人のアラ探し

顔の脚いのが既上りに引つぱつた描き眉毛で二重瞼く見百ます。これは自然の眉に戻しやもアーチを畏へたがいい眉毛がこの(5)頭では装飾の中心です、眼は申分なし、口唇をいま少しライトに——

ゐては子供の獨立を妨げるばかりです。實際に幼兒たちはどんな遊し方をしてゐるかと觀察の子供について調べますと、やはり思きてゐる場どの時間が子供にないことは、觀察達の上によくありません。

ひとりで遊ぶうちに、自制や工夫や忍耐や悩みが自然に子供のうちに察されてくるのですから、一日のうちにどんに少くても必ずひとりである時間がなくてはなりません。

ひとり遊びについては、工夫してやつて子供が遊べるやうにすることです。

たとへば、適に場所をつけたり、手わりをつけて、あぶなくない程にして、喜んで遊ばせるとか、小さい幼兒をつくるとか子供だけが遊べる場所を設けて作つてやるといつて、これでその子供に社會性が發達はしてゐると思つてはいけません。大勢で遊ぶことに、ほんとうに興味や魅力を持つてゐません。それで附和的な遊びを求めたり、ただ惰性にひきづられたり、ぼんやり傍觀的になつたり、いろいろなこまる性質をつくつてゐる場合があります。

……×……

かかるルンペン的遊びは益のないつまらぬものです、子供は放つておいても遊ぶもの、何かをして遊んでゐると思つてゐますが、事実はそこいらに落ちてゐるもの、目に觸れるものを手當り次第に取上げてみたり、近所の子供と喧嘩をしたり、なんとなく遊び暮けてゐるのです。

近所の家へ行つたり、帰つて來たりのぶら〳〵遊びをしてゐる子供が多いやうです。雨曇、家の人が忙しく、本氣で相手にならないこと等から、だん〳〵一人ぼつちになり何をしても、夢中になる程面白く遊べないお子さんが決してやくないのです。注意の觀察な希望的でない子供になるのは當然だと思ひます。

……×……

一日中、近所の子供達、おもしろさうに遊んでゐるのに、うちの子供は一人ぼつちで、ただ家の中にゐるのは可哀そうだと、お友達を呼んでやつたり、お友達の家へ遊びに行かせたりなさいますが、これは一時的の興味はあつても、決して子供の遊びの本質的なものではありません。

子供の遊びは、大人の遊びと違つて、全く自己の興味と、自己の滿足のために遊ぶのですから、大人の干渉は禁物です。

子供の

馬に乘る猿

（5）

石川達三作

伊東顯畫

憶いといふ事（五）

原三郎は竹下課長を偉くないと言つたが、課長井野重吉に至つては

「ああいつか、あいつは使ひものにならないよ」

と言ふばかりでなく、タイピストをつかまへて

「彼切さんよりも偉くないよ」

と言ひ、更に給仕の少年にむかつて、彼こそもつと偉くないと言ふのであつた。

井野重吉は五六歳のころ父に連れられてシャム國に渡り十六歳まで暮したが、何をして國たのかは餘りでなかつた。恐らく彼の父は、シャムの都バンコックに住つて、彼の郷里の特産であるところの鮫皮提灯や鰐皮などを製つてゐたに違ひない。大して資産も殘らなかつたものと見えて、井野重吉は歸朝してからも苦學小學校へ行つたばかりであつた。

どういふ因緣からか分らないが竹下課長は現代公論社を始めるとすぐに井野に仕事を手傳はせた。課長着任後一年。風雲をはらんで一日休んだことがあるだけで、井野の缺勤ぶりは課長よりも正確で且つ缺勤が起らなかつた。しかも缺勤にそれほどを少しも偉くないと言ふよりである。

「さうさ、當り前だよ。あんな者は君、ほかの會社へ行つたらつとまりやしないんだからね。課長さんの腰巾着よりほかに使ひ道はねえよ。あはははは」

十二年のあひだ社長と榮辱をともにして、彼はもう社長の生活のなかに喰ひこんだ僕僕のやうでもあり、あるひは竹下課長といふエルギツシュな感覺を顧慮させるために絶對必要な感覺器官のやうなものでもあつた。しかし感覺細胞は決して感覺ではない。井野自身は決して一人で仕事をやる人物ではなかつた。ただ彼は十二年のあひだ社長とともに歩をし、社長と共に成長をして來たのである。

ところがこの日、彼にとつて奇妙な事件が起つた。

朝、出社と同時に未知の訪問客があつて、井野は一應に外へ出たそのまま歸社にも戻らない。一時すこし遲つてから社へ來つた。それから彼の使ひとして帰るところによると、事件はなかなか面白かつた。

未知の客がちよつと吾いたいからといふので何氣なく外へ出ると、彼は名刺を示して

「實はかういふもんだ」

と言つた。元陸×××學の教官であつた。井野重吉社長はそのまま拘引され、參道の道場に監禁されて猛烈な取調を受けられた。

井野は身長五尺一分體重廿貫にも合格したいほど小さくて敏捷であつた。それに近眼で、野球をするときと女をからかふ時以外は實にスローモーションな男であつた。一言にして言へばかなり氣の利かない風貌で、根性のお人好しでもあつた。

大輪菊花栽培法

（4）

六月

（17）一本立摘芯

短幹——六月一日內外、中幹——六月十日內外、長幹——六月二十日內外に行ふ。一本立の吹直しを行ふには、此時分に根分の苗は殺育し過ぎて思はしくないから、二本立用の摘芯を更に吹直しにすれば非常によい。

（18）中幹移植

（19）二本立摘芯の說明

苗が四寸乃至五寸に成長した時、葉腋の芽を殘りを注意して、下部の葉腋の芽が一番強大なるを見定めて、芽先を摘む。此場合、芽先が指先で摘める位の柔かい箇所で摘む部が肝腎だ。かくて枝の發育に從つて勢力の差の出來た時は、鋏金の鋏を作り勢勢を計る事が出來る。三枝の分れ目となる摘心の箇所は十二二寸五分乃至三寸位のものを理想とする。

（20）摘心の時期

六月一日內外　短幹性の摘心

（開花時發見五尺內外となる）

六月十五日內外　中幹性の摘心

（開花時發見五尺五寸內外となる）

六月下旬頃、長幹性の摘心

（開花時發見五尺內外となる）

（脇芽の寸法）

右の程度なれど、苗の成長により適宜の時摘心する。長幹性の苗だから二十五日頃摘心すると、苗が一尺にもなつて摘心しないのは宜しくない。四寸乃至五寸の位長の時が一番よい。この時の摘作の為に自分の望む苗を心掛けて作る事如何が、上手下手の分れる所である。

（21）殺芯

摘心の時は葉を少くて洗ふ易いから、十分前記の殺菌液で洗ひ、油蟲、スリツプの根絕を期する。この時期は殊に「スリツプ」に注意を要する。

（22）害蟲の防除

（23）水肥及液肥

（24）水肥を施すには、一三回水肥を與へる、又極く後發育遲れに育せず苗が小なりと思ふものは、硫酸アンモニヤ小匙一パイ（約五勺）を一升の水に溶かしたる液を施し發育を促進させる。（但し乘に掛けざるやう注意を要す）

（25）大鉢に本植

鉢本立の二三回の摘つたものは大鉢に本植する。普通九寸鉢を適當とする。鉢には三號鉢又は今戸燒、瓦鉢或はコンクリート鉢を良とし上藝を掛けた本燒の鉢は用ひぬ方がよい。

七月中旬が移植の好期だから、苗に應じ鉢大行ふ。先づ鉢穴に目惚等を伏せ其底土壤又は腐敗二十程入れ其上に前記の培養土を用ひて適當に土を入れ、中幹より扱いた苗は二寸位深く植ゑ付け、長幹より扱いた苗は三寸位深く植ゑ付ける方が、一時的には幾分成長を止めるが後の發育と根ばりを非常に强める。

（本植の時苗の葉さは二枝の分れ目の莫大枝が鉢縁より一寸位高きを適當とす。用土は必ず水をかけて適度の濕氣を持たせて用ひる。鉢植の本植ひる時は澁水がよく通らない。）

（26）本立後養生の本植

七月下旬より八月上旬にかけて八寸鉢に本植する。實生は良否不明なれば、大七寸鉢にて十分である。置場は鉢に應じて加減すべきだが、一本立には一本立の生育を基準とするのである。

（27）敵蟲

七月中は害蟲が盛に發生する時期であるから十分注意して、度々全般に亙り別記の殺蟲液を散布を洗ふ事が必要である。

茶前茶後

驚くべき胃の腑

いつぞや大島に三原山を見物して橋丸といふ船で歸つて來る途中、政治結社の巨頭某二氏、經濟界の大御所某氏、それに實業界の長谷川光太郎氏、特別室で種々話したが、終に船醉ひの話が出た、どうもここに乘込んだ一行は餘り船醉ひをしない連中ばかりで、自分の胃の腑も相當に頑丈な連中らしいと、松岡さんの話に依ると、かつて大西洋航海でシケに浮つた時、原山を見物して橋丸といふ船で歸つて來る途中、政治結社の巨頭某二氏、經濟界の大御所某氏、それに實業界の長谷川光太郎氏、特別室で種々話したが、終に船醉ひの話が出た、どうもここに乘込んだ一行は餘り船醉ひをしない連中ばかりで、自分の胃の腑も相當に頑丈な連中らしいと、松岡さんの話に依ると、かつて大西洋航海でシケに浮つた時、百方努力して遁らない口調で陳弁をくり返したが許してはくれずほとほと閉口して實地に見聞する必要がある。

（32）本立中鉢移植

下旬より七月中旬にかけて、摘芯後發育遲れに發育せず苗が小なりと思ふものは、硫酸アンモニヤ小匙一パイ（約五勺）を一升の水に溶かした液を施し發育を促進させる。（但し乘に掛けざるやう注意を要す）

幹立の二三回の摘つたものは大鉢に本植する。普通九寸鉢を適當とする。鉢には三號鉢又は今戸燒、瓦鉢或はコンクリート鉢を良とし上藝を掛けた本燒の鉢は用ひぬ方がよい。

七月中旬が移植の好期だから、苗に應じ鉢大行ふ。先づ鉢穴に目惚等を伏せ其底土壤又は腐敗二十程入れ其上に前記の培養土を用ひて適當に土を入れ、中幹より扱いた苗は三寸位深く植ゑ付け、長幹より扱いた苗は二寸位深く植ゑ付ける方が、一時的には幾分成長を止めるが後の發育と根ばりを非常に强める。

（本植の時苗の葉さは二枝の分れ目の莫大枝が鉢縁より一寸位高きを適當とす。用土は必ず水をかけて適度の濕氣を持たせて用ひる。鉢植の本植ひる時は澁水がよく通らない。）

（26）本立後養生の本植

【為替相場】（十三日）

東京銀行賣株

日銀賣一〇〇・三〇　同新賣一〇〇・四〇

同新賣一〇〇・五〇　同賣一〇〇・六〇

同賣一〇〇・七〇　同新賣一〇〇・八〇

同賣一〇〇・九〇　同新賣一〇一・〇〇

同賣一〇一・一〇　同新賣一〇一・二〇

同賣一〇一・三〇　同新賣一〇一・四〇

同賣一〇一・五〇　同新賣一〇一・六〇

同賣一〇一・七〇　同新賣一〇一・八〇

同賣一〇一・九〇　同新賣一〇二・〇〇

同賣一〇二・一〇　同新賣一〇二・二〇

同賣一〇二・三〇　同新賣一〇二・四〇

同賣一〇二・五〇　同新賣一〇二・六〇

同賣一〇二・七〇　同新賣一〇二・八〇

同賣一〇二・九〇　同新賣一〇三・〇〇

同賣一〇三・一〇　同新賣一〇三・二〇

同賣一〇三・三〇　同新賣一〇三・四〇

同賣一〇三・五〇　同新賣一〇三・六〇

同賣一〇三・七〇　同新賣一〇三・八〇

同賣一〇三・九〇　同新賣一〇四・〇〇

同賣一〇四・一〇　同新賣一〇四・二〇

同賣一〇四・三〇　同新賣一〇四・四〇

同賣一〇四・五〇　同新賣一〇四・六〇

同賣一〇四・七〇　同新賣一〇四・八〇

同賣一〇四・九〇　同新賣一〇五・〇〇

同賣一〇五・一〇　同新賣一〇五・二〇

同賣一〇五・三〇　同新賣一〇五・四〇

同賣一〇五・五〇　同新賣一〇五・六〇

同賣一〇五・七〇　同新賣一〇五・八〇

同賣一〇五・九〇　同新賣一〇六・〇〇

同賣一〇六・一〇　同新賣一〇六・二〇

同賣一〇六・三〇　同新賣一〇六・四〇

同賣一〇六・五〇　同新賣一〇六・六〇

同賣一〇六・七〇　同新賣一〇六・八〇

同賣一〇六・九〇　同新賣一〇七・〇〇

同賣一〇七・一〇　同新賣一〇七・二〇

同賣一〇七・三〇　同新賣一〇七・四〇

同賣一〇七・五〇　同新賣一〇七・六〇

同賣一〇七・七〇　同新賣一〇七・八〇

同賣一〇七・九〇　同新賣一〇八・〇〇

同賣一〇八・一〇　同新賣一〇八・二〇

同賣一〇八・三〇　同新賣一〇八・四〇

同賣一〇八・五〇　同新賣一〇八・六〇

同賣一〇八・七〇　同新賣一〇八・八〇

同賣一〇八・九〇　同新賣一〇九・〇〇

同賣一〇九・一〇　同新賣一〇九・二〇

同賣一〇九・三〇　同新賣一〇九・四〇

同賣一〇九・五〇　同新賣一〇九・六〇

同賣一〇九・七〇　同新賣一〇九・八〇

同賣一〇九・九〇　同新賣一一〇・〇〇

同賣一一〇・一〇　同新賣一一〇・二〇

同賣一一〇・三〇　同新賣一一〇・四〇

同賣一一〇・五〇　同新賣一一〇・六〇

同賣一一〇・七〇　同新賣一一〇・八〇

同賣一一〇・九〇　同新賣一一一・〇〇

同賣一一一・一〇　同新賣一一一・二〇

同賣一一一・三〇　同新賣一一一・四〇

同賣一一一・五〇　同新賣一一一・六〇

同賣一一一・七〇　同新賣一一一・八〇

同賣一一一・九〇　同新賣一一二・〇〇

同賣一一二・一〇　同新賣一一二・二〇

同賣一一二・三〇　同新賣一一二・四〇

同賣一一二・五〇　同新賣一一二・六〇

同賣一一二・七〇　同新賣一一二・八〇

同賣一一二・九〇　同新賣一一三・〇〇

同賣一一三・一〇　同新賣一一三・二〇

同賣一一三・三〇　同新賣一一三・四〇

同賣一一三・五〇　同新賣一一三・六〇

同賣一一三・七〇　同新賣一一三・八〇

同賣一一三・九〇　同新賣一一四・〇〇

同賣一一四・一〇　同新賣一一四・二〇

同賣一一四・三〇　同新賣一一四・四〇

同賣一一四・五〇　同新賣一一四・六〇

同賣一一四・七〇　同新賣一一四・八〇

同賣一一四・九〇　同新賣一一五・〇〇

同賣一一五・一〇　同新賣一一五・二〇

同賣一一五・三〇　同新賣一一五・四〇

同賣一一五・五〇　同新賣一一五・六〇

同賣一一五・七〇　同新賣一一五・八〇

同賣一一五・九〇　同新賣一一六・〇〇

同賣一一六・一〇　同新賣一一六・二〇

同賣一一六・三〇　同新賣一一六・四〇

同賣一一六・五〇　同新賣一一六・六〇

同賣一一六・七〇　同新賣一一六・八〇

同賣一一六・九〇　同新賣一一七・〇〇

同賣一一七・一〇　同新賣一一七・二〇

同賣一一七・三〇　同新賣一一七・四〇

同賣一一七・五〇　同新賣一一七・六〇

同賣一一七・七〇　同新賣一一七・八〇

同賣一一七・九〇　同新賣一一八・〇〇

同賣一一八・一〇　同新賣一一八・二〇

同賣一一八・三〇　同新賣一一八・四〇

同賣一一八・五〇　同新賣一一八・六〇

同賣一一八・七〇　同新賣一一八・八〇

同賣一一八・九〇　同新賣一一九・〇〇

同賣一一九・一〇　同新賣一一九・二〇

同賣一一九・三〇　同新賣一一九・四〇

同賣一一九・五〇　同新賣一一九・六〇

同賣一一九・七〇　同新賣一一九・八〇

同賣一一九・九〇　同新賣一二〇・〇〇

同賣一二〇・一〇　同新賣一二〇・二〇

同賣一二〇・三〇　同新賣一二〇・四〇

同賣一二〇・五〇　同新賣一二〇・六〇

同賣一二〇・七〇　同新賣一二〇・八〇

同賣一二〇・九〇　同新賣一二一・〇〇

同賣一二一・一〇　同新賣一二一・二〇

同賣一二一・三〇　同新賣一二一・四〇

同賣一二一・五〇　同新賣一二一・六〇

同賣一二一・七〇　同新賣一二一・八〇

同賣一二一・九〇　同新賣一二二・〇〇

同賣一二二・一〇　同新賣一二二・二〇

同賣一二二・三〇　同新賣一二二・四〇

同賣一二二・五〇　同新賣一二二・六〇

同賣一二二・七〇　同新賣一二二・八〇

同賣一二二・九〇　同新賣一二三・〇〇

同賣一二三・一〇　同新賣一二三・二〇

同賣一二三・三〇　同新賣一二三・四〇

同賣一二三・五〇　同新賣一二三・六〇

同賣一二三・七〇　同新賣一二三・八〇

同賣一二三・九〇　同新賣一二四・〇〇

同賣一二四・一〇　同新賣一二四・二〇

同賣一二四・三〇　同新賣一二四・四〇

同賣一二四・五〇　同新賣一二四・六〇

同賣一二四・七〇　同新賣一二四・八〇

同賣一二四・九〇　同新賣一二五・〇〇

同賣一二五・一〇　同新賣一二五・二〇

同賣一二五・三〇　同新賣一二五・四〇

同賣一二五・五〇　同新賣一二五・六〇

同賣一二五・七〇　同新賣一二五・八〇

同賣一二五・九〇　同新賣一二六・〇〇

同賣一二六・一〇　同新賣一二六・二〇

同賣一二六・三〇　同新賣一二六・四〇

同賣一二六・五〇　同新賣一二六・六〇

同賣一二六・七〇　同新賣一二六・八〇

同賣一二六・九〇　同新賣一二七・〇〇

同賣一二七・一〇　同新賣一二七・二〇

同賣一二七・三〇　同新賣一二七・四〇

同賣一二七・五〇　同新賣一二七・六〇

同賣一二七・七〇　同新賣一二七・八〇

同賣一二七・九〇　同新賣一二八・〇〇

同賣一二八・一〇　同新賣一二八・二〇

同賣一二八・三〇　同新賣一二八・四〇

同賣一二八・五〇　同新賣一二八・六〇

同賣一二八・七〇　同新賣一二八・八〇

同賣一二八・九〇　同新賣一二九・〇〇

同賣一二九・一〇　同新賣一二九・二〇

同賣一二九・三〇　同新賣一二九・四〇

同賣一二九・五〇　同新賣一二九・六〇

同賣一二九・七〇　同新賣一二九・八〇

同賣一二九・九〇　同新賣一三〇・〇〇

同賣一三〇・一〇　同新賣一三〇・二〇

同賣一三〇・三〇　同新賣一三〇・四〇

同賣一三〇・五〇　同新賣一三〇・六〇

同賣一三〇・七〇　同新賣一三〇・八〇

同賣一三〇・九〇　同新賣一三一・〇〇

同賣一三一・一〇　同新賣一三一・二〇

同賣一三一・三〇　同新賣一三一・四〇

同賣一三一・五〇　同新賣一三一・六〇

同賣一三一・七〇　同新賣一三一・八〇

同賣一三一・九〇　同新賣一三二・〇〇

同賣一三二・一〇　同新賣一三二・二〇

同賣一三二・三〇　同新賣一三二・四〇

同賣一三二・五〇　同新賣一三二・六〇

同賣一三二・七〇　同新賣一三二・八〇

同賣一三二・九〇　同新賣一三三・〇〇

同賣一三三・一〇　同新賣一三三・二〇

同賣一三三・三〇　同新賣一三三・四〇

同賣一三三・五〇　同新賣一三三・六〇

同賣一三三・七〇　同新賣一三三・八〇

同賣一三三・九〇　同新賣一三四・〇〇

同賣一三四・一〇　同新賣一三四・二〇

同賣一三四・三〇　同新賣一三四・四〇

同賣一三四・五〇　同新賣一三四・六〇

同賣一三四・七〇　同新賣一三四・八〇

同賣一三四・九〇　同新賣一三五・〇〇

同賣一三五・一〇　同新賣一三五・二〇

同賣一三五・三〇　同新賣一三五・四〇

同賣一三五・五〇　同新賣一三五・六〇

同賣一三五・七〇　同新賣一三五・八〇

同賣一三五・九〇　同新賣一三六・〇〇

同賣一三六・一〇　同新賣一三六・二〇

同賣一三六・三〇　同新賣一三六・四〇

同賣一三六・五〇　同新賣一三六・六〇

同賣一三六・七〇　同新賣一三六・八〇

同賣一三六・九〇　同新賣一三七・〇〇

同賣一三七・一〇　同新賣一三七・二〇

同賣一三七・三〇　同新賣一三七・四〇

同賣一三七・五〇　同新賣一三七・六〇

同賣一三七・七〇　同新賣一三七・八〇

同賣一三七・九〇　同新賣一三八・〇〇

同賣一三八・一〇　同新賣一三八・二〇

同賣一三八・三〇　同新賣一三八・四〇

同賣一三八・五〇　同新賣一三八・六〇

同賣一三八・七〇　同新賣一三八・八〇

同賣一三八・九〇　同新賣一三九・〇〇

同賣一三九・一〇　同新賣一三九・二〇

同賣一三九・三〇　同新賣一三九・四〇

同賣一三九・五〇　同新賣一三九・六〇

同賣一三九・七〇　同新賣一三九・八〇

同賣一三九・九〇　同新賣一四〇・〇〇

同賣一四〇・一〇　同新賣一四〇・二〇

同賣一四〇・三〇　同新賣一四〇・四〇

同賣一四〇・五〇　同新賣一四〇・六〇

同賣一四〇・七〇　同新賣一四〇・八〇

同賣一四〇・九〇　同新賣一四一・〇〇

同賣一四一・一〇　同新賣一四一・二〇

同賣一四一・三〇　同新賣一四一・四〇

同賣一四一・五〇　同新賣一四一・六〇

同賣一四一・七〇　同新賣一四一・八〇

同賣一四一・九〇　同新賣一四二・〇〇

同賣一四二・一〇　同新賣一四二・二〇

同賣一四二・三〇　同新賣一四二・四〇

同賣一四二・五〇　同新賣一四二・六〇

同賣一四二・七〇　同新賣一四二・八〇

同賣一四二・九〇　同新賣一四三・〇〇

同賣一四三・一〇　同新賣一四三・二〇

同賣一四三・三〇　同新賣一四三・四〇

同賣一四三・五〇　同新賣一四三・六〇

同賣一四三・七〇　同新賣一四三・八〇

同賣一四三・九〇　同新賣一四四・〇〇

同賣一四四・一〇　同新賣一四四・二〇

同賣一四四・三〇　同新賣一四四・四〇

同賣一四四・五〇　同新賣一四四・六〇

同賣一四四・七〇　同新賣一四四・八〇

同賣一四四・九〇　同新賣一四五・〇〇

同賣一四五・一〇　同新賣一四五・二〇

同賣一四五・三〇　同新賣一四五・四〇

同賣一四五・五〇　同新賣一四五・六〇

同賣一四五・七〇　同新賣一四五・八〇

同賣一四五・九〇　同新賣一四六・〇〇

同賣一四六・一〇　同新賣一四六・二〇

同賣一四六・三〇　同新賣一四六・四〇

同賣一四六・五〇　同新賣一四六・六〇

同賣一四六・七〇　同新賣一四六・八〇

同賣一四六・九〇　同新賣一四七・〇〇

同賣一四七・一〇　同新賣一四七・二〇

同賣一四七・三〇　同新賣一四七・四〇

同賣一四七・五〇　同新賣一四七・六〇

同賣一四七・七〇　同新賣一四七・八〇

同賣一四七・九〇　同新賣一四八・〇〇

同賣一四八・一〇　同新賣一四八・二〇

同賣一四八・三〇　同新賣一四八・四〇

同賣一四八・五〇　同新賣一四八・六〇

同賣一四八・七〇　同新賣一四八・八〇

同賣一四八・九〇　同新賣一四九・〇〇

同賣一四九・一〇　同新賣一四九・二〇

同賣一四九・三〇　同新賣一四九・四〇

同賣一四九・五〇　同新賣一四九・六〇

同賣一四九・七〇　同新賣一四九・八〇

同賣一四九・九〇　同新賣一五〇・〇〇

同賣一五〇・一〇　同新賣一五〇・二〇

同賣一五〇・三〇　同新賣一五〇・四〇

同賣一五〇・五〇　同新賣一五〇・六〇

同賣一五〇・七〇　同新賣一五〇・八〇

同賣一五〇・九〇　同新賣一五一・〇〇

同賣一五一・一〇　同新賣一五一・二〇

同賣一五一・三〇　同新賣一五一・四〇

同賣一五一・五〇　同新賣一五一・六〇

同賣一五一・七〇　同新賣一五一・八〇

同賣一五一・九〇　同新賣一五二・〇〇

同賣一五二・一〇　同新賣一五二・二〇

同賣一五二・三〇　同新賣一五二・四〇

同賣一五二・五〇　同新賣一五二・六〇

同賣一五二・七〇　同新賣一五二・八〇

同賣一五二・九〇　同新賣一五三・〇〇

同賣一五三・一〇　同新賣一五三・二〇

同賣一五三・三〇　同新賣一五三・四〇

同賣一五三・五〇　同新賣一五三・六〇

同賣一五三・七〇　同新賣一五三・八〇

同賣一五三・九〇　同新賣一五四・〇〇

同賣一五四・一〇　同新賣一五四・二〇

同賣一五四・三〇　同新賣一五四・四〇

同賣一五四・五〇　同新賣一五四・六〇

同賣一五四・七〇　同新賣一五四・八〇

同賣一五四・九〇　同新賣一五五・〇〇

同賣一五五・一〇　同新賣一五五・二〇

同賣一五五・三〇　同新賣一五五・四〇

同賣一五五・五〇　同新賣一五五・六〇

同賣一五五・七〇　同新賣一五五・八〇

同賣一五五・九〇　同新賣一五六・〇〇

同賣一五六・一〇　同新賣一五六・二〇

同賣一五六・三〇　同新賣一五六・四〇

同賣一五六・五〇　同新賣一五六・六〇

同賣一五六・七〇　同新賣一五六・八〇

同賣一五六・九〇　同新賣一五七・〇〇

同賣一五七・一〇　同新賣一五七・二〇

同賣一五七・三〇　同新賣一五七・四〇

同賣一五七・五〇　同新賣一五七・六〇

同賣一五七・七〇　同新賣一五七・八〇

同賣一五七・九〇　同新賣一五八・〇〇

同賣一五八・一〇　同新賣一五八・二〇

同賣一五八・三〇　同新賣一五八・四〇

同賣一五八・五〇　同新賣一五八・六〇

同賣一五八・七〇　同新賣一五八・八〇

同賣一五八・九〇　同新賣一五九・〇〇

同賣一五九・一〇　同新賣一五九・二〇

同賣一五九・三〇　同新賣一五九・四〇

同賣一五九・五〇　同新賣一五九・六〇

同賣一五九・七〇　同新賣一五九・八〇

同賣一五九・九〇　同新賣一六〇・〇〇

同賣一六〇・一〇　同新賣一六〇・二〇

同賣一六〇・三〇　同新賣一六〇・四〇

同賣一六〇・五〇　同新賣一六〇・六〇

同賣一六〇・七〇　同新賣一六〇・八〇

同賣一六〇・九〇　同新賣一六一・〇〇

同賣一六一・一〇　同新賣一六一・二〇

同賣一六一・三〇　同新賣一六一・四〇

同賣一六一・五〇　同新賣一六一・六〇

同賣一六一・七〇　同新賣一六一・八〇

同賣一六一・九〇　同新賣一六二・〇〇

同賣一六二・一〇　同新賣一六二・二〇

同賣一六二・三〇　同新賣一六二・四〇

同賣一六二・五〇　同新賣一六二・六〇

同賣一六二・七〇　同新賣一六二・八〇

同賣一六二・九〇　同新賣一六三・〇〇

同賣一六三・一〇　同新賣一六三・二〇

同賣一六三・三〇　同新賣一六三・四〇

同賣一六三・五〇　同新賣一六三・六〇

同賣一六三・七〇　同新賣一六三・八〇

同賣一六三・九〇　同新賣一六四・〇〇

同賣一六四・一〇　同新賣一六四・二〇

同賣一六四・三〇　同新賣一六四・四〇

同賣一六四・五〇　同新賣一六四・六〇

同賣一六四・七〇　同新賣一六四・八〇

同賣一六四・九〇　同新賣一六五・〇〇

同賣一六五・一〇　同新賣一六五・二〇

同賣一六五・三〇　同新賣一六五・四〇

同賣一六五・五〇　同新賣一六五・六〇

同賣一六五・七〇　同新賣一六五・八〇

同賣一六五・九〇　同新賣一六六・〇〇

同賣一六六・一〇　同新賣一六六・二〇

同賣一六六・三〇　同新賣一六六・四〇

同賣一六六・五〇　同新賣一六六・六〇

同賣一六六・七〇　同新賣一六六・八〇

同賣一六六・九〇　同新賣一六七・〇〇

同賣一六七・一〇　同新賣一六七・二〇

同賣一六七・三〇　同新賣一六七・四〇

同賣一六七・五〇　同新賣一六七・六〇

同賣一六七・七〇　同新賣一六七・八〇

同賣一六七・九〇　同新賣一六八・〇〇

同賣一六八・一〇　同新賣一六八・二〇

同賣一六八・三〇　同新賣一六八・四〇

同賣一六八・五〇　同新賣一六八・六〇

同賣一六八・七〇　同新賣一六八・八〇

同賣一六八・九〇　同新賣一六九・〇〇

同賣一六九・一〇　同新賣一六九・二〇

同賣一六九・三〇　同新賣一六九・四〇

同賣一六九・五〇　同新賣一六九・六〇

同賣一六九・七〇　同新賣一六九・八〇

同賣一六九・九〇　同新賣一七〇・〇〇

同賣一七〇・一〇　同新賣一七〇・二〇

同賣一七〇・三〇　同新賣一七〇・四〇

同賣一七〇・五〇　同新賣一七〇・六〇

同賣一七〇・七〇　同新賣一七〇・八〇

同賣一七〇・九〇　同新賣一七一・〇〇

同賣一七一・一〇　同新賣一七一・二〇

同賣一七一・三〇　同新賣一七一・四〇

同賣一七一・五〇　同新賣一七一・六〇

同賣一七一・七〇　同新賣一七一・八〇

同賣一七一・九〇　同新賣一七二・〇〇

同賣一七二・一〇　同新賣一七二・二〇

同賣一七二・三〇　同新賣一七二・四〇

同賣一七二・五〇　同新賣一七二・六〇

同賣一七二・七〇　同新賣一七二・八〇

同賣一七二・九〇　同新賣一七三・〇〇

同賣一七三・一〇　同新賣一七三・二〇

同賣一七三・三〇　同新賣一七三・四〇

同賣一七三・五〇　同新賣一七三・六〇

同賣一七三・七〇　同新賣一七三・八〇

同賣一七三・九〇　同新賣一七四・〇〇

同賣一七四・一〇　同新賣一七四・二〇

同賣一七四・三〇　同新賣一七四・四〇

同賣一七四・五〇　同新賣一七四・六〇

同賣一七四・七〇　同新賣一七四・八〇

同賣一七四・九〇　同新賣一七五・〇〇

同賣一七五・一〇　同新賣一七五・二〇

同賣一七五・三〇　同新賣一七五・四〇

同賣一七五・五〇　同新賣一七五・六〇

同賣一七五・七〇　同新賣一七五・八〇

同賣一七五・九〇　同新賣一七六・〇〇

同賣一七六・一〇　同新賣一七六・二〇

同賣一七六・三〇　同新賣一七六・四〇

同賣一七六・五〇　同新賣一七六・六〇

同賣一七六・七〇　同新賣一七六・八〇

同賣一七六・九〇　同新賣一七七・〇〇

同賣一七七・一〇　同新賣一七七・二〇

同賣一七七・三〇　同新賣一七七・四〇

同賣一七七・五〇　同新賣一七七・六〇

同賣一七七・七〇　同新賣一七七・八〇

同賣一七七・九〇　同新賣一七八・〇〇

同賣一七八・一〇　同新賣一七八・二〇

同賣一七八・三〇　同新賣一七八・四〇

同賣一七八・五〇　同新賣一七八・六〇

同賣一七八・七〇　同新賣一七八・八〇

同賣一七八・九〇　同新賣一七九・〇〇

同賣一七九・一〇　同新賣一七九・二〇

同賣一七九・三〇　同新賣一七九・四〇

同賣一七九・五〇　同新賣一七九・六〇

同賣一七九・七〇　同新賣一七九・八〇

同賣一七九・九〇　同新賣一八〇・〇〇

同賣一八〇・一〇　同新賣一八〇・二〇

同賣一八〇・三〇　同新賣一八〇・四〇

同賣一八〇・五〇　同新賣一八〇・六〇

同賣一八〇・七〇　同新賣一八〇・八〇

同賣一八〇・九〇　同新賣一八一・〇〇

同賣一八一・一〇　同新賣一八一・二〇

同賣一八一・三〇　同新賣一八一・四〇

同賣一八一・五〇　同新賣一八一・六〇

同賣一八一・七〇　同新賣一八一・八〇

同賣一八一・九〇　同新賣一八二・〇〇

同賣一八二・一〇　同新賣一八二・二〇

同賣一八二・三〇　同新賣一八二・四〇

同賣一八二・五〇　同新賣一八二・六〇

同賣一八二・七〇　同新賣一八二・八〇

同賣一八二・九〇　同新賣一八三・〇〇

同賣一八三・一〇　同新賣一八三・二〇

同賣一八三・三〇　同新賣一八三・四〇

同賣一八三・五〇　同新賣一八三・六〇

同賣一八三・七〇　同新賣一八三・八〇

同賣一八三・九〇　同新賣一八四・〇〇

同賣一八四・一〇　同新賣一八四・二〇

同賣一八四・三〇　同新賣一八四・四〇

同賣一八四・五〇　同新賣一八四・六〇

同賣一八四・七〇　同新賣一八四・八〇

同賣一八四・九〇　同新賣一八五・〇〇

同賣一八五・一〇　同新賣一八五・二〇

同賣一八五・三〇　同新賣一八五・四〇

同賣一八五・五〇　同新賣一八五・六〇

同賣一八五・七〇　同新賣一八五・八〇

同賣一八五・九〇　同新賣一八六・〇〇

同賣一八六・一〇　同新賣一八六・二〇

同賣一八六・三〇　同新賣一八六・四〇

同賣一八六・五〇　同新賣一八六・六〇

同賣一八六・七〇　同新賣一八六・八〇

同賣一八六・九〇　同新賣一八七・〇〇

同賣一八七・一〇　同新賣一八七・二〇

同賣一八七・三〇　同新賣一八七・四〇

同賣一八七・五〇　同新賣一八七・六〇

同賣一八七・七〇　同新賣一八七・八〇

同賣一八七・九〇　同新賣一八八・〇〇

同賣一八八・一〇　同新賣一八八・二〇

同賣一八八・三〇　同新賣一八八・四〇

同賣一八八・五〇　同新賣一八八・六〇

同賣一八八・七〇　同新賣一八八・八〇

同賣一八八・九〇　同新賣一八九・〇〇

同賣一八九・一〇　同新賣一八九・二〇

同賣一八九・三〇　同新賣一八九・四〇

同賣一八九・五〇　同新賣一八九・六〇

同賣一八九・七〇　同新賣一八九・八〇

同賣一八九・九〇　同新賣一九〇・〇〇

同賣一九〇・一〇　同新賣一九〇・二〇

同賣一九〇・三〇　同新賣一九〇・四〇

同賣一九〇・五〇　同新賣一九〇・六〇

同賣一九〇・七〇　同新賣一九〇・八〇

同賣一九〇・九〇　同新賣一九一・〇〇

同賣一九一・一〇　同新賣一九一・二〇

同賣一九一・三〇　同新賣一九一・四〇

同賣一九一・五〇　同新賣一九一・六〇

同賣一九一・七〇　同新賣一九一・八〇

同賣一九一・九〇　同新賣一九二・〇〇

同賣一九二・一〇　同新賣一九二・二〇

同賣一九二・三〇　同新賣一九二・四〇

同賣一九二・五〇　同新賣一九二・六〇

同賣一九二・七〇　同新賣一九二・八〇

同賣一九二・九〇　同新賣一九三・〇〇

同賣一九三・一〇　同新賣一九三・二〇

同賣一九三・三〇　同新賣一九三・四〇

同賣一九三・五〇　同新賣一九三・六〇

同賣一九三・七〇　同新賣一九三・八〇

同賣一九三・九〇　同新賣一九四・〇〇

同賣一九四・一〇　同新賣一九四・二〇

同賣一九四・三〇　同新賣一九四・四〇

同賣一九四・五〇　同新賣一九四・六〇

同賣一九四・七〇　同新賣一九四・八〇

同賣一九四・九〇　同新賣一九五・〇〇

同賣一九五・一〇　同新賣一九五・二〇

同賣一九五・三〇　同新賣一九五・四〇

同賣一九五・五〇　同新賣一九五・六〇

同賣一九五・七〇　同新賣一九五・八〇

同賣一九五・九〇　同新賣一九六・〇〇

同賣一九六・一〇　同新賣一九六・二〇

同賣一九六・三〇　同新賣一九六・四〇

同賣一九六・五〇　同新賣一九六・六〇

同賣一九六・七〇　同新賣一九六・八〇

同賣一九六・九〇　同新賣一九七・〇〇

同賣一九七・一〇　同新賣一九七・二〇

同賣一九七・三〇　同新賣一九七・四〇

同賣一九七・五〇　同新賣一九七・六〇

同賣一九七・七〇　同新賣一九七・八〇

同賣一九七・九〇　同新賣一九八・〇〇

同賣一九八・一〇　同新賣一九八・二〇

同賣一九八・三〇　同新賣一九八・四〇

同賣一九八・五〇　同新賣一九八・六〇

同賣一九八・七〇　同新賣一九八・八〇

同賣一九八・九〇　同新賣一九九・〇〇

同賣一九九・一〇　同新賣一九九・二〇

同賣一九九・三〇　同新賣一九九・四〇

同賣一九九・五〇　同新賣一九九・六〇

同賣一九九・七〇　同新賣一九九・八〇

同賣一九九・九〇　同新賣二〇〇・〇〇

同賣二〇〇・一〇　同新賣二〇〇・二〇

同賣二〇〇・三〇　同新賣二〇〇・四〇

同賣二〇〇・五〇　同新賣二〇〇・六〇

同賣二〇〇・七〇　同新賣二〇〇・八〇

同賣二〇〇・九〇　同新賣二〇一・〇〇

同賣二〇一・一〇　同新賣二〇一・二〇

同賣二〇一・三〇　同新賣二〇一・四〇

同賣二〇一・五〇　同新賣二〇一・六〇

同賣二〇一・七〇　同新賣二〇一・八〇

同賣二〇一・九〇　同新賣二〇二・〇〇

同賣二〇二・一〇　同新賣二〇二・二〇

同賣二〇二・三〇　同新賣二〇二・四〇

同賣二〇二・五〇　同新賣二〇二・六〇

同賣二〇二・七〇　同新賣二〇二・八〇

同賣二〇二・九〇　同新賣二〇三・〇〇

同賣二〇三・一〇　同新賣二〇三・二〇

同賣二〇三・三〇　同新賣二〇三・四〇

同賣二〇三・五〇　同新賣二〇三・六〇

同賣二〇三・七〇　同新賣二〇三・八〇

同賣二〇三・九〇　同新賣二〇四・〇〇

同賣二〇四・一〇　同新賣二〇四・二〇

同賣二〇四・三〇　同新賣二〇四・四〇

同賣二〇四・五〇　同新賣二〇四・六〇

同賣二〇四・七〇　同新賣二〇四・八〇

同賣二〇四・九〇　同新賣二〇五・〇〇

同賣二〇五・一〇　同新賣二〇五・二〇

同賣二〇五・三〇　同新賣二〇五・四〇

同賣二〇五・五〇　同新賣二〇五・六〇

同賣二〇五・七〇　同新賣二〇五・八〇

同賣二

（第二版）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）　昭和十四年十一月十四日（火曜日）　臺灣日日新報　第一万四千二百四十八號　（一）

臺灣日日新報

日本唯一夕刊　全島共通二十頁

發行所　臺北市表町二丁目廿番地　社報新日日新聞社　電話代表五八〇五番　編輯部二二〇五番　二二〇六番　運動具二四八二番　ダンピ

定價　本紙一部六錢　一ヶ月前金壹圓五拾錢　三ヶ月金四圓四拾錢　半ヶ年金八圓（日本國內外地郵送料共）　廣告料　普通一行十五字　壹圓　特等一行十五字　壹圓五拾錢　四回以上拾五回迄一割引　廿回以上一割五分引　三十回以上二割引　百回以上三割引　臨時增頁一割五分增

編輯兼發行人　佐々木八郎

社說

結核の撲滅に眞劍であれ　官民協力で目的達成は容易

一

本日は、全國的に亘り結核豫防を國民間の一大運動たらしむべき意義深い日である。此の運動の擴大されるに至つた直接の理由は、申すまでもなく本年四月二十八日皇后陛下より特に令旨を賜はり、且結核豫防週間に當面御勞働の思召を以て金五十万圓下賜あらせられし事に基づく。右令旨には〝國民體力の向上は國本を培ふ所以にして、現下特に心を致すべき所なり、而して亞時結核の蔓延甚だしく、其の國力に及ぼす影響の大なるに鑑み、茲に深慮に堪へざるなり〟と仰せられ、結核豫防の重要が今迄の樣に打ち棄て置かるべきものでない事を御指摘遊ばされた。

二

右令旨を拜した內閣總理大臣は恐懼、直ちに結核の防遏に關する中央機關を設け、資金を募り、この運動を全國國民の主流運動たらしめ、官民協力して以て結核の撲滅を期すの擧へを執るに至つた次第だ。今わが國の結核による死亡者數を見るに、大約十四、萬五千人に及び、その患者總數に至つては實に百五十萬に上ると言はれてゐる然も此の患者の多數は、二十歲前後の若き壯年男女であり、このため男子としては國民最大の義務たる結婚して子女を產む事ができず、女子は結婚に關する夢を實現する能はざるの悲境に置かれてゐる。實に今日に拜する如き此の病魔の國力に及ぼす影響の深大なるや言ふを俟たない。凡そ、若くして死にゆくくらゐ悲慘なものはない。然も結核豫防は、單獨に富む若い男女の間を絕ちしも限りなく擴げられてゆく故に政府や國民がこれが豫防に重點心を注ぐならば、比較的容易に效果を擧げ得るのである。況に結核豫防の事業たるや、決して新規の事業ではない。そのため從來とても、結核豫防の事業は、各地方廳に於て相當力を注いで來たのである。例へば、結核患者の收容施設の如きも、既に全國に於て一萬五千床を算するに至つてゐる。例へば例を京都に採つて見ても、松山療養所及び赤十字國際病院の二箇所で其の收容ベッド數は七十二に過ぎない。其他地方では特に結核患者收容の特殊施設なく實にみじめなものであつた。そのため每年の市會州會等に於て國立療養所建設の議員より八建ヒ之れが計畫を要望し續けて來たが、漸く昨年度より五ヶ年計畫にて二百床を、又府縣市では十四、五年度に於て百二十床を設置し得る見透しがついたと聞く。然も本病の治療には、食物に特に留意する必要あり、勞ひ多額の治療費を要するので、貧困の患者に對しては營養や、營養費の特別なる給與の如きにも、官民一體となる結核の豫防施設に治療に對し方多の眞と誠意とを以て協力し、速かに撲滅の目的を達するやう切望するものである。

廣西要地を爆撃

有力な海鷲が急襲

【十海十二日發同盟】艦隊報道部發表

中支方面戰況

一、海軍航空部隊は前日に引續き十一日南寧（N城省南部）附近に移動中の殘敵を擊滅しこれに大打撃を與へたり

南支方面戰況

南支を縱橫に痛爆

廣州灣東方海岸や雷州半島要地など

【十海十二日發同盟】艦隊報道部發表

一、海軍航空部隊は去る十一日廣州灣東方海岸の敵陣地及び附近倉庫群に多數の直擊彈を得いづれも大破せしめたり

二、同日他の航空部隊は廣州灣東方海岸の敵據點を隨所に攻擊し軍用、水雷及び艦艇において艦船多數を擊破、軍用機數十に小

在支米國權益被害

逐次日米間で解決

表發部報情

【東京十二日發同盟】日支全面の軍事衝突に依つて在支米國權益に與へた不當の損害に對して日本政府は損害賠償其他の方法で滿足解決しつつあるが、右解決條件の內容につき十二日外務省當局では次の如く發表した

一、華北占領下にあつた上海大學數棟を返還することは十月中旬解決を見た

二、山東省內國際ルヂヤラン救濟會の各種設備は昨年金五万圓で解決した

三、浙北倉庫內の米救會より撤兵後バルカンに外交戰の勃發を卽時に見越した不當の手段を講じつつある歐洲諸國に對し極力平和の維持に努力しつつあるが、ギリシヤは今次歐洲大戰の勃發を見た

四、華北占領下にあつた上海大學數棟を返還することは十月中旬解決を見た

五、山東省內國際ルヂヤラン救濟會の各種設備は昨年金五万圓で解決した

六、浙北倉庫內の米救會より撤兵後バルカンに外交戰の勃發を卽つづつある時ギリシヤは如何なる態度に出るか、ギリシヤは今次歐洲大戰の勃發を見た

英佛、伊勢力と希臘は不卽不離

對獨感情は惡化す

【アテネ十二日發同盟】獨ソ、伊英佛バルカンに外交戰の勃發を卽つづつある時ギリシヤは如何なる態度に出るか、ギリシヤは今次歐洲大戰の勃發を見た

全力を擧げ國力充實に努力し外人旅行者の激減の結果の外、國內の消費經濟部に國して中小の手段を講じ最近に物資の調查を終つてゐるが、ギリシヤは今次歐洲大戰の勃發を見た

一句を出ずして獨空陸軍進擊か

【ベルリン十二日發同盟】ドイツ軍の大規模攻勢は陸海空軍共に依然急速度を以つて大規模に進められてをり問題は今や進擊開始の時期如何にかかつてゐる、情報は何れも此點以內に關する限り、陸上に於ても一句を出ずして英佛軍は空軍の大擊滅を期待してをり、陸上に於ても一句を出ずしてドイツ軍の進擊を見るだらうと傳へてゐる、英佛側では此の點に關し聲を大にしてドイツ軍のベルギー、オランダ兩國への進擊を宣傳してゐるが如きは、實は英佛側こそ兩國への進擊を企圖してゐるのではないかとの疑ひが濃厚である▲獨ソ兩軍共協定の成立は事實問題の一段階となるものであるが、果して事實上の協定成立なりや否や、又協定成立なりや否や、又協定成立なりや否や、又

戰時體制下の經濟事情（十七）

新船建造が急務だ

歐洲大戰と海運業者の心構へ

船舶運營會の解散に伴ひ船舶運營會設置當時の關係者及び

ソ聯戰鬪力の解剖

ヴオーレンベルグ

「赤軍の機械化への傾向を激化しつつある現今、獨ソ両方の關係に於て常に相隣のなんらない存在が獨ソ邦交である、獨伊と結び英佛と離れず然も英佛両國の關係を利用しては北歐に中歐に又バルカンに侵し氣な行動を示しつつある獨逸、然も各國殊に英佛がこれに容喙し得ない理由の最大なものは「獨ソの實力に對する恐怖」にある、然るに近年の「アメリカン・マキエリー」誌に寄せられたヴオーレンベルグの「獨ソ關係論」は、或る意味に於て正しい一つの答案になる事を失はないであらう、以下は其の抄訳である

蘇聯の實力は謎か

蘇聯邦通信は、赤軍は近代的に於て最大な要素たり得ないと論じてゐるが、他方その反對に獨逸を世界最強の陸軍國と主張する二種の意見がある、即ち前者はニンヘン會議を開催獨逸の調査として報告して「何故獨逸は自國が實際から除外されるのに憤んじたか、フィンコスロヴアキア・カルパト地域は斷然蘇聯防衛の第一線として至上の軍事的重要性を獨逸に與へてゐるのである」といふに對し、後者はスターリンの粛軍は軍事的敗北を恐れたのではなく政治的目的からであつたと觀測してゐる、果して何れが眞であらうか

赤軍の數とその裝備

ウオロシロフ國防相の言明を基礎に赤軍今日の常備軍を百五十万と假定する事は何等不當でない、そして人的資源からする兵力補給は約七個戰鬪、十九歳より四十歳迄の男子は三千万により、中二千万は兵役經驗者であり現に二十二個乃至二十四歳の一千万は軍事訓練を受けて第一線歩兵となり得る從つてソ聯は戰時第一ヶ月目に八百万を動員に四百万をアジアに配置し得る訳である、又、最近の數字によると、赤軍は各種の戰車二万、裝甲車二千、軍用トラク十万、トラクター十五万を備へ、曾て歐國（西歐諸國）に對抗して獨逸から一歩の讓歩も許さなかつた獨逸の飛行機を納入したが獨逸邦内優秀の航空機工業も拘らず伯國からは其の中の八機を購入したに過ぎず、又戰車工場の唯み合ひは獨逸の半分にも及ばないものがあつた、一方が不良獨逸だといへば他方は無能操作による發現だと憤慨する始末であり、トラクターはスペーア・パーツ（各個部分品）の不足で大部分破棄されてゐる、其外、獨逸の海軍軍艦殊に、潜水艦と快速小艦艇の建造に集中されたに拘らず、オルロフ艦組の粛清斷罪によつて急遽され、今や主力艦建造に力を注いでゐるが、獨逸海軍當局の眼中に無くソ聯海軍は其の實體は、アフソシ・イタリーに次ぐ第三位であつた

作戰部長の交代頻々

一九三七年六月、軍部粛清の始まつたとき、赤軍の將校は約八万と称された、このうち一万五千の軍隊首は、高級指揮官の首級假定

擴張する米海軍

渡洋一本槍の新鋭機

主力艦を除く軍艦九百隻、各軍艦二、三九五百の追加建造計畫が始動中のアメリカ議會に提出されるはづだつた、先ごろのグルー大使の演説といひ、今度の大海軍擴張といひ、彼等が太平洋を越えたアジア大陸に白い眼をむいてゐる事は否定出來ない、モンロー主義による防衛的海軍擴張を一擲してアジアの門戸開放に武力をもつて乘り出さうとするのが米國の現實的な態度である

×

米國が徹底的孤立和主義の下に世界動亂者たらんとする意圖ある事は今更始まつた事ではない、彼等は今日迄まつた事ではない、彼等は

アジアを包含したアメリカニズムの下に新しい獨逸の日主義的モンロー主義を行る態でようとしてゐる、此の際、各新モンロー主義の、當の前哨を持つものがアメリカ海軍であり、大海軍國の完成と兩洋同時作戰を目的とする彼等は巨大な艦艇による海軍の大擴張に乘り出した、皆々が最も注目せざるを得ないのは、有大艦艇に含まれた空軍の增强である、一九四二年に五千四百台を艦備すると言ふ事は、新艦軍國のアメリカだけに重大な關心が持たれる、現在の米空軍は陸軍と共に六十二個飛行隊（約二千五百台）、海軍として五千五百中隊（約二千二百台）、海計二千八百台で、これの航空艦隊は將校一万五千人、下士二万三千人、計一万四千八百人である之に對し獨逸飛行總台二中隊がある中隊の基本機數は輸送機（二八）偵察機（二三）戰鬪機（二八）爆撃機（二三）戰鬪機（二八）で有る、尙は海軍機中最も異彩を放つのは長距離哨戒機の大型の「P・B・Y」型であり、又陸軍の「空の要塞」たるボーイング重爆との比較する海軍の「空の覇者」たる大爆撃機「X・P・B・S」號、それに就作中のものに偵察爆撃機グオート號がある、このグオート號は今後個々大艦に搭載されるらしいが、千哩距離の偵察に使用されるに至つては驚歎する航空母艦用のもので、これ等は新鋭カーチス偵察戰鬪機やグラマン戰鬪機と共に從洋戰一本槍の新鋭機である、航空母艦の增加と共に大いに注目されてよい

×

航空母艦は現存七隻であり、大年後には十二隻になる譯である、サラトガ、レキシントン、ウオースプ、ラングレー、レインヂャーエンタープライズ、ヨークタウンの七隻でサラトガ、レキシントンは二万三千トン、他は二万トン級至二十五隻の搭載機を搭載するアイランド型で逆力は二〇—二三ノットである、そして米艦隊は此の航空母艦を最も重視する遠洋戰を作戰の第一條件としてゐる

×

次に注目されるのは潜水艦八十七隻完成である、これは現勢——別號第五位にあるだけに偉大の感を與はれる、建造中のスレッヂヤー級六隻、サーゴ級六隻は何れも一、四五〇トンの水上巡洋艦だが、今後建造されるものは設計作區からみて完璧力大航續水艦であらう、魚雷發射裝置をもつてゐないアメリカの潜水艦は最新の艦隊から「ブリキ缶」として不要な增强を計つた、潜水艦の改善、新建造は多年苦心されて來たものだ

要するに今後の大建設は莫大な予算で相當に含まれてゐる、といつてよからう

獨蘇の閲兵式

フレスト・リトウスクに於ける東西から會合した獨蘇両軍隊の閲兵式、タンクは獨逸のもの

大衆娯樂雜誌

討敵夜

霞流小太刀の舞ふところ　火を浴く

十字太郎の忠臣一銘刀死を賭す武士の意地！

爆笑落語特集

野村胡堂

献納機　時田鷲郎
女車掌募集　曉亭夢助
銃後隨筆　乙女心のかがやき

千代紙行燈　山本周五郎
傾城春の旅笠　村上元三

大江戸幻日記　三好季雄
髷切り怪劍風　黒目男
風來女蜘蛛　黒部溪一
龍ヶ池怪異　大森滴
荒潮母の潮　伊藤松雄

國物語

大衆小説切讀傑作揃ひ

海軍

マンガ笑鯨隊

二月十日　定價三十錢（送料二錢）

結婚行のりば

とんかつ大將

百合っぺの秘密

黒風の花束

（正義）（熱血）

讀切傑作

銀座暮色　高見順

讀切傑作

居留地の女　長谷川伸

讀切小說

縞の仇討　添田さつき

讀切小說

お紋島田　長田幹彦

讀切小說

日陰草紙　海音寺潮五郎

讀切小說

潜水艦　出席者

讀切小說

若き日の汪兆銘　野村胡堂

讀切小說

隠密三面鬼　野村胡堂

讀切小說

名流寸話　六名士

讀切小說

座談會

幽鬼の塔　江戸川乱歩

讀切小說

大阪五人娘　藤澤桓夫

讀切小說

日本農村の偉人　後藤文夫

讀切小說

三枚の切符　三甲賀三郎

讀切小說

兄　加藤武雄

讀切小說

森の石松　川口松太郎

讀切小說

若い未亡人　竹田敏彦

讀切小說

家庭の明治天一坊　山岡荘八

讀切小說

現代の旗　川口松太郎

時代小說

森の石松　川口松太郎

時代小說

若い未亡人　竹田敏彦

家庭の明治天一坊　山岡荘八

現代の旗　川口松太郎

（價六十錢）　東京　牛込　新潮社

二十二月號　出の日

氣人のひ合ひ奪ち忽責發

貧血　結核　胃腸

浩寮豫防　强化促進

精肝丸

鎭劑

肝臟　油製劑　牛肝配合　發明特許

みよい易い

御試用見本及び「新榮養讀本」　無代送呈

藤澤友吉商店

大阪市西區道修町　東京日本橋區本町　京城府西小門町

NK1315

療養患者の榮養補給に

甘美味で、胃腸にもよく

効果優れたポリタミン

ンミタリポ

劑養榮合綜Bンミタビ・酸ノミア

小瓶（一圓五五錢）　中瓶（二圓五〇錢）　大瓶（四圓五〇錢）　各地藥店、百貨店、賣店にあり

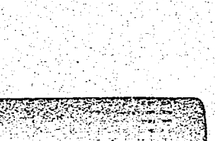
武田發賣品

發賣元　大阪市道修町　武田長兵衛商店
關東代理店　東京市本町　小西新兵衛商店
製造元　大阪市堀上通　武田榮養化學株式會社

89(1)568

激流 (14)

久生十蘭 作
伊勢良夫 畫



冬薔薇と鷺（二）

「田舎さまから御電話でございますが、こちらへお繋ぎいたしませうか」

「用、何つたの」

「いいえ」

「この間のお約束のことでしたら承知してゐますと申上げてちやうだい。お伺ひするつもりですつて」

「かしこまりました」

「それで明かわかつたら、改めて來なくてもよろしいわ。……帝劇へ寄つても待つていらつしやいつていに、カーテンを開けてちやうだい。……そつちの方ぢやなく、向う側の方だけでいいわ」

劇場に向いた大きな硝子扉から午に近いどんよりとした灰色の光が射し込んで來て、胡蝶蘭の鉢のある廣い大きな廊台と、スーチンの描のかかつた壁の一部をぼんやりと照す。

夏子と数枝は、女学校からの古い友達で、これにもう一人、師範の出夏子を加へて、ちりぢりになつてからも、時合にちよくちよくは會をしてゐる。

七月某日、数枝の夫、野依数枝は二度の役を終へて、歌舞伎座の大きな自抜き看板の掛つたのを、先般銀座にお目見得興行中、突然脳溢血で斃れ、歌舞伎座病院に入院、三月ばかりの療養の末、漸く退院することが出來たのである。

×

數枝の入院中、夏子は毎日のやうに病院へ見舞に行つたが、數枝は、病室に入つて來る夏子の顔を見ると、いきなり、

「ねえ、夏子さん、あたし、もう駄目かしら？　ほんとのことを仰つて頂戴、ねえ、ねえ」

と、夏子の手を握つて、涙を流すのであつた。

×

數枝は、病院の寝臺の上で、

白兵戰展開は必至
選擧熱全島に横溢

台中州員林郡下第一回街庄協議會員候選者選擧は十二日次第が切つて落された、員林郡役所では開催万端手配濟みの同郡各庄代表者は十時半に至り員林街の旧庁舎に参集りで立候補届を受理、引續き制限外の投票立會人を決定、午後零時半に至り投票箱を開いて投票を開始、午後一時半迄に投票を終了、直ちに開票に移つたが、開票立會人は各候補者より一名宛出ることゝなつてゐるので、午後二時半頃には全部開票を終つた、當選者は次の如くである

▲員林街＝楊允哉、鄭若曦、邱長順、楊發、陳慶木▲大村庄＝賴萬興▲埔心庄＝邱英宮▲永靖庄＝陳英意、翁十、翁秀英▲田中庄＝陳步機、陳科、陳發興、陳英炳、張水川▲埤圳、一水兩庄は投票無

定員に肉薄
嘉義市十三名に達す

【嘉義電話】嘉義市會議員補選は十二日の告示とともに候補者の色を見し初日はその由利村築三郎（前職）河井敏夫（新）兩氏が出馬し十名の立候補者を見たが翌十三日の二日目の十二日は大倉三郎（新）林文欽（自）の兩氏が相次いで立候補し午後三時現在に於て定員六名に對し十四名の十三名に達し後一人で定員という盛況さで選擧戰は刻々と本格的に展開しつゝある、而して內地人側は前民選の古賀者である渡川剛氏、伊藤彦三の出馬が噂されてゐるので結局十名以上は確實と見られ愈々激戰たるものがあるかに對し本島人側は當初の意嚮に反して全然出馬は無く、唯一の望みは前市會議員補選に於て落選した本島人側の候補者である林金殿の再出馬が噂されてゐるに過ぎない

愈よ文書戰
アト五名で定員

【台南電話】台南州下各地の選擧立候補を目出た者は十二日午後四時現在十二名となり定員を四名超過する十六名の多數に上り、愈よ文書戰の展開を見るに至つた、尙ほ十二日午後四時現在の立候補者は次の如くである

▲台南市＝安藤利吉、鈴木清一郎、佐藤友治郎、伊東俊男、吉田信一、吉田良一、陳新發、林金生▲新豐郡＝楊梓、陳天來、蔡金木、李昌目、劉興▲關廟庄＝王清海、中條善吉、蔡金生、蔡哲仁▲麻豆街＝林清、今西清治郎、司馬慶吉、林燕卿、郭紫霄▲阿蓮庄＝黃登興、楊共、吉岡清、黃阿土、黃清仁▲善化庄＝田中秀雄、田川良一、陳新發、林金生▲燕巢庄＝陳萬興、許有目、蔡金木、李昌目、劉興▲田寮庄＝林清、今西清治郎、司馬慶吉、林燕卿、郭紫霄▲阿蓮庄＝黃登興、楊共、吉岡清、黃阿土

彰化郡下は深謀
新豐郡で慰靈祭
十二日幾かに

【台南電話】台南州下第一回の街庄協議會員候補者の立候補は今次初めて選擧に關する制限外の事項に關する投票に移つたが、午後三時半頃迄に全部開票を終つた、其の結果は次の如くである

△岡山街　中田秀雄、陳清一郎、佐藤友治郎、伊東俊男、吉田信一、吉田良一、陳新發、林金生

△楠梓庄　潘士清、田中秀雄、田川良一、陳新發、林金生

△燕巢庄　陳萬興、許有目、蔡金木、李昌目、劉興

△田寮庄　林清、今西清治郎、司馬慶吉、林燕卿、郭紫霄

△阿蓮庄　黃登興、楊共、吉岡清、黃阿土、陳清仁

△路竹庄　顏錫麟、王雨生、黃順安、顏錫福、林金生

△湖內庄　顏文治、顏錫麟、林燕卿、許建安、陳清風、顏錫麟、王雨生、林燕卿、陳清風、黃阿土

△彌陀庄　李貴、王天賜、陳振期、洪約、郭水泉、陳燕卿、林順生、劉振堂、陳燕卿、林順生

△左營庄　曾振輝、許錦堆、王甲洞、中條善吉、林金生

△鳳山街　林清、今西清治郎、司馬慶吉、林燕卿、郭紫霄

△小港庄　黃登興、楊共、吉岡清、黃阿土、陳清仁

△旗山街　田原政則、吳貴華、永澤第十、野村榮次郎、猪飼貫一、久松喜助、猪飼貫一、吉田信次、陳新發、林金生

△六龜庄　坂本秀一、邱賢生、永田英一、邱義發、山內太郎

△杉林庄　坂本秀一、邱賢生、永田英一、邱義發、山內太郎

△甲仙庄　猪飼貫一、林永、陳昌、劉清發

△內門庄　左官貫、陳秀發、郭何生、義發、齊田仁之助、陳義發

△長興庄　田中秀雄、陳清生、田原政則、久松喜助、猪飼貫一、吉田信次、陳新發、林金生

△鳥松庄　黃登興、楊共、吉岡清、黃阿土、陳清仁

△仁武庄　高橋市藏、川口重六、邱義發、黃登興、黃阿土

△大樹庄　三宅松雄、陳新發、村上光藏、陳振川、陳振發、吉岡清、陳新發、林金生

△大寮庄　百崎喜助、杉田定吉、白崎秀夫、高田三一郎、邱賢生

△林園庄　坂本秀一、邱賢生、永田英一、邱義發、山內太郎

△東港街　吉田榮二、大坂正吉、原田田實、義發、許白木、鈴木傳次郎、陳振發、林金生

△新園庄　野口秀雄、陳林石、黃英、吳振發、陳振發、林金生

△萬丹庄　湯山勇、李添發、黃登興、王清海、李添發、李水木、田原定太郎

△新埤庄　湯原太治吉、山添秀藏、鍾鵬翮、三宅、曾炳琳、吳振發、陳振發、林金生

△枋寮庄　久米川西四郎、洪鼎、鄭水龍、吉谷太一、楠島德太郎、洪鼎吉

△枋山庄　王長發、黃五福、張鼎能吉、陳秀能

△東港街　大坂正吉、原田田實、義發、許白木、鈴木傳次郎、陳振發、林金生

△新園庄　野口秀雄、陳林石、黃英、吳振發、陳振發、林金生

△萬丹庄　湯山勇、李添發、黃登興、王清海、李添發、李水木、田原定太郎

△竹山庄　台中州竹山郡下官選議員候補者は左の通り

中街秀雄、坂本秀藏、黃賢英、原田實、永田英一、吉田信次、楊阿苗、陳新發、林金生、劉清發

△杉林庄　坂本秀一、邱賢生、永田英一、邱義發、山內太郎

△甲仙庄　猪飼貫一、林永、陳昌、劉清發

△內門庄　左官貫、陳秀發、郭何生、義發、齊田仁之助、陳義發

△美濃庄　田原政則、吳貴華、永澤第十、野村榮次郎、猪飼貫一、久松喜助、猪飼貫一、吉田信次、陳新發、林金生

△六龜庄　坂本秀一、邱賢生、永田英一、邱義發、山內太郎

△杉林庄　坂本秀一、邱賢生、永田英一、邱義發、山內太郎

△長興庄　田中秀雄、陳清生、田原政則、久松喜助、猪飼貫一、吉田信次、陳新發、林金生

△鳥松庄　黃登興、楊共、吉岡清、黃阿土、陳清仁

△仁武庄　高橋市藏、川口重六、邱義發、黃登興、黃阿土

△大樹庄　三宅松雄、陳新發、村上光藏、陳振川、陳振發、吉岡清、陳新發、林金生

△大寮庄　百崎喜助、杉田定吉、白崎秀夫、高田三一郎、邱賢生

△林園庄　坂本秀一、邱賢生、永田英一、邱義發、山內太郎

△東港街　吉田榮二、

秋宵漫筆（上）

馬場孤蝶

最近は通信機關までも通じてゐるし、交通の便はよくなるし、昔のやうに、同じ東京市内でありながら、殆ど二日がかりでもなくては往來ができないといふやうな場所はなくなつたので、手紙でも出さなければ用が弁じないといふやうなことは餘り少くなつたので、一般に手紙の文言などが下手になつて來たやうな氣がする。尤も誰でも言文一致の文體を用ひることになつてしまつたので、これまで手紙をあまり書かなかつた人々までが盛に手紙を出すやうになつたのは全體にいふと、前記の通り、文言が極りきつた用向だけをすますに止まるといふやうな、味も素氣もないものが多くなつたのは殘念である。

昔の人々は、簡單至極の書付け、可なりに學識のある人でなくは餘り手紙を書かなかつたやうである。今迄つてゐるそれ等の人々の手紙をば、今の我々のザラの手紙と比較して優劣をいふのは無理な話ではあるけれども、昔は昔、今は今、時代が違つてゐるから、大體に於て、それがやむを得ないことであらうと思ふ。

何んな事等の世になり、公開を重の文體のみが行はれるやうになつたといつても、先きが何んな年配の人であらうと、何んな身分の人であらうと、宛名は何々樣きりで、何の敬稱もなければ、他の敬稱も何もないのでは、全く事務の手紙のやうに思はれて、何だかそつけのないやうな氣がしてならぬではないか、年長者ならば若干の敬稱を用ひるとか、少し長者ならば大人とか、同輩でも親友とかいふやうな敬稱は用ひることにし、瞬付けにも稱吾とか、梧下とか、硯北とかいふやうなものを添つけた方が、單なる事務を辨ぜられた簡の手紙であることの感がはつきりと表はれて宜しからうと思ふ。

それのみならず、何でも公開で書くのが宜しいからといつて、何んな長上の人々に向つての手紙にも、會ふことをお目にかかるとのみ書くのは、慇なとは感じを缺へないと言ふだと思ふ。これなどは、昔風で敬遠きはするだらうが、親類とか、懇意とか、親上とかいふ風に書くべきものであらう、年輕とか、知識とか、技能に對する敬意は、如何なる平等時代にも維持さるべきものである。

僅か公開のみで手紙を書くことになると、一切敬語を使はないことにすればそれにかぎ、ます、ませんといふやうな言葉を用ひるのであつたら、男の手紙も女の手紙も同じやうになつてしまふ憾れがある。文章の方では、男女共通の文體になるのは、際に嬉しいことには相違ないのだが、手紙の方では、男が女のやうな手紙を書くのでは、何んだかベタベタしてイヤらしく感はれるし女が男のやうな文章では、素つ氣のない、手紙を書くやうになつては、無愛嬌なものであらうと思ふ。

言文一致になれば、尚の事、手紙は各人の言葉と同じになるのだから、餘り文章體にこだはらずに、自分の言葉を用ひるやうにしたらよからうと思ふ。

中途の有名女史

▲林芙美子さんもこのごろなんのなやみか、會ふひとごとに「あたしこのごろなさびしいわ」とあいさつするので即判、誰かが「まあどうして？」などときかうものなら芙美子さんの御自慢の小説の題目、時代が新しいだけに我々には親しみの持てるものが多い。（朝日新聞社）

先づ我が國に於て現存する最古の戯曲絵から筆を起し、歌に信仰上の絵畫を滿たすに過ぎなかつた歌舞が、江戸時代に入つてから、漸次に藝術的に發展し、遂に世界に比なき大戯曲を發達するに至つたことを述べ、各派の主要作家を中心にその傳記、作風、歌舞等を考察獨自の立場に立つて論じてゐる。

下つて繪卷から明治に入るその資料も殆ど網羅で、本書の中でも最も光彩あり、異色ある研究である。ただ繪に資料を年代順に羅列するのではなく、作品の背景となる當時の人情風俗等も加味して論じてゐるので、歌舞の發達ばかりか、さながら社會史をひもどく如き感がある。その上著者は總じて著に出來るだけ正確を期してゐる点等がある。美術家の一般として止まない次第である。（岡書院刊、菊八二六判、一五・〇〇八阪市西區江戸堀二丁目四〇番地）

日本版畫變遷史

島屋政一氏の好著

池田敏雄

「歌舞繪」は四大部門、八百餘に分る大著である。爰に於ては勿論その點から見ても出版界稀に見る出色の繪卷物である。

著者は先年「印歌文明史」五冊を著し、斯界のために貢獻したばかりか、現に月刊「印歌時報」を主宰し、且つ歌舞伎座「印歌美術館」を世に設け、多年我が國の印歌文化の發達に盡して來た人である。本書の如き良心的の著作が、印歌文化に貢獻する所大きいことは、まことにもつともなことである。

○

著書者は、版畫と云へば先づ第一に浮世繪を聯想するが、著者は版畫そのものを廣めて版畫に限らず、廣く版畫、オフセット版畫、石版畫、エッチング版畫に用ひられる版畫に關する總ての變遷を詳細に研究し、且つ各種の版畫に對する批評を加へ、更に版畫の將來に對する意見を述べてゐる。

○

本書の内容を一瞥するに古代の版畫、浮世繪の出現、錦繪の流行、歌舞伎芝居時代、歌川派の版畫家、幕末の版畫家、明治時代の版畫、大津繪等、御版畫

秋

大井岸

風雲にのびてゐる
二すぢの道路と二すぢの老年—
プラタナスが差出した手の様に
つつ立つて居き
その上にはグローンの電光が
雲の様に靜かに流つてゐる。
—すばらしい三叉道路の
たそがれではあるが
今日もきて赤松は疲れた。」
導く洋館の上にくろずんだ
風雨を脉めつつ

×

つい、今！
無知に恐じて私を
純情なる衝動にまで驅りたてた
情熱の亡骸にそつと觸つてみる
離別の中で大人にまで
發達した私の
少年の日の印象の詩は
夢かなる迷信にすぎなかつたのだ。

×　×

血羊のやうに
おどけた顔をして私は
アスファルトの上を
自轉車と共に走る
小犬を
じつと見てゐるのだ。

姉妹へ（遺稿）

本場秀信

知らぬ、拾てゐ、被らない
尊い實をいま持つてゐる。」
無限の富は
無限の施しが出來る。
されど、いまいたづきに苦るしんでゐる
汝らのゆくゑを見守つてゐるのだ。

×

罹れ彼れの差別のない施しを
汝の父はなし遂げんと
心ひまなく願つてゐるのだ。」
それは、汝らに悲しくも
心おきなく別れゆく日なのだ。

×

住む所もない人の世を
父はたのしみに
風の如く住むことを欲してゐるのだ。
それには、無限の眼から
罰をいただき前懺な
友をもとめて抱きしめるのだ。
おおおとなしい
いとしい姉妹よ、聴く育てよ。
思ふ

×

夢の世に
幼い夢を見て
いとしい姉妹は微笑をつゝむる、
慈しみの心は
眼から全身に
眞紅のやうに裂びかぶさり
美しの露をふりかけてゐる。

×

美しい、いたづきの暇なき、」
曙光の中に、ひとり眼ざめ
こしかたのフキルムと
あてもない子どもの將來のことなど、
心につみにおもひはからう
汝の父は歸かなれど。

×

曾間の父を戀いたがれど
心の次は永初に歸がぬ父」
たはむれの世にまじり、」
世のすべてを脱はつて
時々、眼をつつる父なのだ」

×

汝の父は、すべての世の人が

書籍

日本版畫變遷史

島屋政一氏の好著

池田敏雄

「歌舞繪」は四大部門、八百餘に分る大著である。爰に於ては勿論その點から見ても出版界稀に見る出色の繪卷物である。

著者は先年「印歌文明史」五冊を著し、斯界のために貢獻したばかりか、現に月刊「印歌時報」を主宰し、且つ歌舞伎座「印歌美術館」を世に設け、多年我が國の印歌文化の發達に盡して來た人である。本書の如き良心的の著作が、印歌文化に貢獻する所大きいことは、まことにもつともなことである。

○

著書者は、版畫と云へば先づ第一に浮世繪を聯想するが、著者は版畫そのものを廣めて版畫に限らず、廣く版畫、オフセット版畫、石版畫、エッチング版畫に用ひられる版畫に關する總ての變遷を詳細に研究し、且つ各種の版畫に對する批評を加へ、更に版畫の將來に對する意見を述べてゐる。

○

本書の内容を一瞥するに古代の版畫、浮世繪の出現、錦繪の流行、歌舞伎芝居時代、歌川派の版畫家、幕末の版畫家、明治時代の版畫、大津繪等、御版畫の變遷及び鑑賞、平版術の發達現代版畫界の概勢の八篇に大別され、版畫の變遷史上逸すべからざるものは、細かな点に至るまで論ぜられてゐることは申すまでもない。

六二七年パリーで刊行されたフランソア・ソリエーの「日本版畫史」の歌舞繪解等、これまで餘り世に知られてゐない資料を紹介し、更に我が國に歌舞繪を傳へた歌舞の始祖岩間馬兵衛をはじめ、京阪、東京地方に於ける歌舞界の變遷を詳述し、最後に石版、アルミ版、エッチ・ビー製版法から、現代の版畫界の概勢にまで及んで筆を擱めてゐる。

○

殊に本書には原色版あるひはコロタイプ、石版、着色凸版等の別刷挿繪八十餘をはじめ、本文挿り込圖版四百三十餘が插入してあり、これは全く他の追隨を許さない所である。しかもこれらに使用圖版又は入手困難な貴重なものが多く、それが殆ど一頁に一つの割合で插入してあるのだから、圖版だけ見ても興味津々たるものがある。美術家の一般として止まない次第である。（岡書院刊、菊八二六判、一五・〇〇八阪市西區江戸堀二丁目四〇番地）

お乳の出る藥

産後催乳に

高尚な職業

治療師短期養成！

大阪産婆母乳研究所

大阪市西成區三日子町

眞救療法

開業!! 今のうち無試驗開業が出來る講師!! 特典!!

眞救療術學講習所

眞救療術器：無痕灸療器

刺戟鍼療器

親橋のオシパイプ

參精

官製

紅屋樂器店

大阪市南區南本町四丁目

結核免疫

有馬・青山・太鐵三醫學博士創製

A〇の特長

A〇の適應症

三共 SANKYO

タカヂアスターゼ

食物の完全消化に

胃腸機能衰退→消化不良

原料の昂騰に拘らず

花王石鹸

純粹度九九・四%

花王石鹸株式會社製造販賣

令旨を奉體して
大國民運動開始さるる
努めよ結核豫防のために

十分とは云へ戰いが結核豫防活動に幕を切つて落されると同時に擴大強化されその成果は各方面より注目されて居る以上の結果として本島の結核豫防運動は更なる十分の力を注がれ、當局に於ては 皇恩に感激し 本運動 を驅體として擧國一致を施設の實現、結核豫防團體の普及、豫防知識の普及等に全力を盡り、以て令旨の万分の一に應い奉らんことを期して居る

側近の奉仕者から
名譽の應召者
その第一陣
戸田少尉がその一人

まだ選擧氣分低調
臺北州下各街庄の民選
島都は舌戰展開

國民體力の向上へ
結核豫防の國運動に際し 森岡長官の談

小公學校兒童から
感想文を懸賞募集
題は『時局・南支展を觀て』

臺北市會議員候補者
石堂明治

記念博を契機に
泰國へ邦品進出

家庭園藝奬勵
立候補十六名

優良部落を選ぶ
部落振興會共進會

英印汽船の貨物船
新嘉坡沖合で沈沒

四人の復讐
ペンガルの槍騎兵

中野君敗退
全日本の庭球戰

校長は不在
內地へ出張中

會葬者二千餘
陳天來氏の葬儀

北二師生ら騷ぐ
普通科生と演習科生が大亂鬪
學校側は鎭撫に奔走中

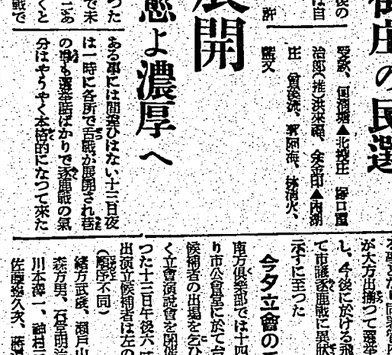
全島市議立候補者數
臺灣總督府警務局保安課發表

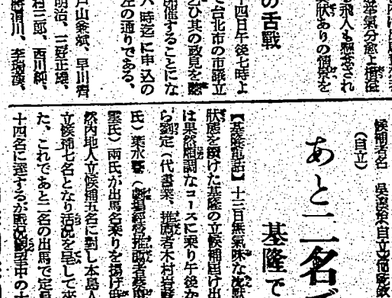
二勇士の市葬
廿五日新竹で

百五十萬人
以て御心の一勞
結核豫防の國運動に際し 森岡長官の談

東久邇宮盛厚王殿下御歸還

（羽田飛行場にて撮影）





保険金額倍額
最も利廻良い安全確実
最も親切迅速
前川生命
社長 本間日京
東京都谷比

男 葉古道儀 豫
病氣中ノ處養生ノ爲メ不相叶十一月十二日午後六時十五分逝去致候ニ付キ此段訃告仕候
追テ來ル十一月十七日午後一時ヨリ自宅ニ於テ共同式相營ミ申候
父 男 同 同 同 同 同 同
親族 友人
榮 双 双 双 双 仁 仁 仁
申 連 溪 堅 盛 和 壽 義 同 同

各々氣力なき凡戰

秋の市内中等野球第一日

台北市内中學校野球秋の爭覇戰第一日は十一日午前十時半より新公園球場に於て入場式に續いて三試合を擧行、既報の如く一中、國語、二師が各一勝したまづ定刻十時半若干遲刻の感ある開會を先頭に參加六校が各々ユニホーム姿凛々しく入場、優勝パット授與の後、選手宣誓、長の開會の挨拶あり直に第一試合を擧ぐ一中、商業が元氣一杯ファイテングも鮮かに始球式は戸水會長が打者の逆きどころインコースへもの凄い速球を投込んで商業の喝采を浴び愈々定刻を過ぎること二十分三山球部のプレーボール高らかに第一戰の火蓋切られ結局前記三校が勝殘つたが、本日の試合に特に感じた事は各校とも我先に缺けてゐた點で、强いて擧げれば一中がやゝキビ〳〵しく動きを見せてゐた外は攻守ともに氣力なき凡戰に終始し、投手の意氣の上がらぬ事夥しく時に一中の攻擊が缺けたのでは眞に寂しい限りといふべきであつた

（各試合は第一試合（二回裏一中の攻擊）

9A—1 商業守備陣總崩れ

巧に危機を切抜けた憎田

一中　22011102A　9A—1
商業　00001000　9A—1

一回（商業）國二番、山本二塁打で二死の後本多第一球を左翼へ痛烈な三塁打したが大塚遊飛（二中）田中遊撃内野安打、島俣投手四球で二死滿塁、藤吉の右飛失で小林田中巧く拾ひ一塁に止むも一中一點を加ふ

▲一回（商業）四番、山本二塁打後二死滿塁となつたが大塚遊飛（二中）田中走者の盲點を衝いて二塁を陷れ三塁打者の時盗を敢行したが本多の左飛失で小林田中巧く拾ひ一塁に止むも一中一點を加ふ

◇商業十一人かれは、白十二のヒラキは當然、而してこれは先手の意味を有してゐる、それは白十二が成ると黒は十三と、コスムで隅をうらねばならぬからである黒は何故十三のコスミを必要とするか（參考圖）假に黒十三で「ナノ十六」にコスむと、白は開き手に「ナノ十五」にコスむと、白は開き手に「ナノ十五」にコスむと、白は開き手に「ナノ十五